



新世紀のキャンパス  
Campus of New Century

聖徳大学  
聖徳大学短期大学部 1号館



聖徳大学の新たなキャンパスコアとなる1号館は、図書館、調理実習室、ホール、メディアパークなどを備えた複合施設だ(千葉県松戸市)。



蝶のイメージのチェアをあしらひ、女性大学らしい華やぎのある吹抜けの「アトリウム」。



本格的なコーヒーの香り漂う中でゆっくり読書を楽しめる「聖徳ギャラリー」。

聖徳大学は2009年4月に、川並記念図書館、教育・研究棟からなる1号館を竣工した。1号館のメインとなる図書館の構想について、川並弘純副理事長は、「創立者・川並香順の思想である“時代の変化に応じた『和』の教育に基づいた人間教育”と“良い環境が良い教育を育む”の2つをどう具現化するか。それは女性が安らげるファシリティと遊び心“のりしろ”であり、女性大学としての聖徳大学のアイデンティティを具現化することだった」と語る。利己主義にならず、互いを認め支え合う和の心を育み、時代の変化に対応しながら活躍できる女性を教育する場にしたいという思いが込められている。

1号館は、照明デザイナーの石井幹子氏が、今回初めてインテリアと家具のデザインを手がけたもので、そのコンセプトは、「五感に心地よいインテリア」「自然に人が集う“トポス(場所)”」「明確なフロアコンセプトとディテール・デザイン」。天空から深海をイメージした空間の中で、自然と人との和を表現した。

地下2階、地上8階の館内には、2-8Fに川並記念図書館が置かれ、8F「天空の館」に聖徳博物館、貴重書展示ラウンジ、7F「知の森」と6F「学びの丘」には開架閲覧室、5F「集いの園」にエントランスホール、子ども図書館、茶室、4F「希望の海」にメディアパーク、3F「探求の深海」に香順メディアホール、自動書庫(2-3F使用)を設置。特に子ども図書館には幼児・児童向けに約1万冊の絵本・自然科学の選書を所蔵。「おはなしのへや」では、教育実習を兼ね、学生が幼児に実際に絵本や紙芝居を読み聞かせたり、「たいけんのへや」では、ホバークラフトや空気砲などの実験道具で、子どもが自然科学を楽しみながら体感できる仕掛けがしてある。

教育・研究棟は実践授業のゾーンとした。2010年4月に学科から学部へ改組する人間栄養学部の教育施設が充実している。3Fには製菓実習室、実験室、1-2Fには調理実習室、キッチンスタジオ、視聴覚教室を用意し、B1-2Fにはコンピュータ演習室・教室を設置した。キッチンスタジオと視聴覚教室は、マルチメディア環境で連携しており、大勢の学生が学ぶことができる。また、キッチンスタジオで体感した一流の調理技術を調理実習室ですぐに実践することもできる。なお調理実習室はガスコンロとIHヒーターの両方を採用しており、現場のニーズに合った最新設備となっている。



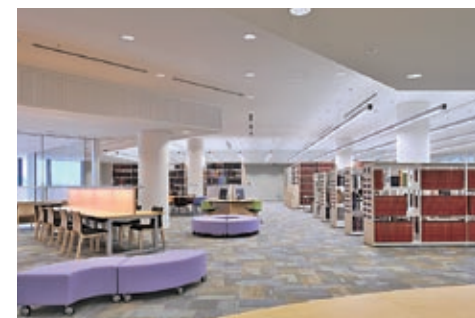
講演会や国際会議に使用する「香順メディアホール」には、184席のシートに同時通訳機能を装備。



子ども図書館の「たいけんのへや」は、等身大の動物やその足あと、パラボラアンテナ式天井など、実験道具でいっぱい。



一流の客員教授の調理技術を間近に体感できる「キッチンスタジオ」。



100万冊の収蔵能力と約1000席の閲覧室を設けた川並記念図書館の開架閲覧室(上)と50席ある個人閲覧室(右)。



図書館資料と連携した50台のPCを備える「メディアパーク」は、論文作成の学生で常ににぎわっている。

